

思いを伝える

関谷先 生涯学習課 (979-1733)

7月7日、文化センターで
青少年健全育成大会が行わ
れ、町内の小学校5校、中学
校2校の計7校の代表者が
「わたしの主張発表」を行
いました。
わたしの主張発表の内容や
社会を明るくするポスター特
選作品などを紹介します。



人のあたたかさ、あいさつから生まれるもの

函南小学校 6年 大嶽 瑛巴さん



1年ほど前、今の住居に引っ越してきたばかりの私に近所の人たちは、笑顔で優しく接してくれました。今までアパートに住んでいて、周りの人々と接することがほぼなかったのですが、近所の人たちと話すことがこんなに楽しいことだと初めて気付きました。

ゴミゼロの日に、私は軍手が真っ黒になるまで落ち葉をかき集めました。すると向かいの家のおばさんが「大人と同じくらい働いてくれたね。ありがとう」と言ってくれ、心が温かくなりました。

組の人たちがあいさつをしてくれても、私は緊張で小さな声でしかあいさつできませんでしたが、ある時思い切って自分から大きな声であいさつを試してみました。すると相手は、にっこり笑ってあいさつを返してくれました。今でもその笑顔が忘れられません。

あるニュースで、地震や台風で被災した人たちが子どもたちと一緒に助け合う姿を見て、人の力強さを感じました。いざという時、心を通わせ合うには、日常のあいさつが大切なのだと思います。

私たちも身近な人たちとのあいさつで心を通わせ、それが「快話」となれば、地域のつながりを大切にできる人になれるのではないかと思います。これからも私は大きな声であいさつをしていきます。

成長

丹那小学校 6年 渡邊 澤さん



1年生の時、発表することが苦手でした。先生の励ましもあつて発表を続けていきましたが、間違えることが怖くて、発表をやめたいという気持ちが強くなっていました。

2年生になり、発表で悩んでいた私は兄に「いつも学校で発表しているの」と質問しました。兄は「発表って楽しいよね」と答えてくれました。その言葉で私は自分が情けなくなり、次の日発表をしました。答えを間違えてしまいました。落ち込む私を仲間たちが励ましてくれました。その日からまた発表に対して嫌な気持ちにならないように、たくさん勉強をして自信を持つようと考えました。

5年生の時、私は自主学習や漢字学習などを頑張る、先生から褒めてもらえたことで、少しずつ自分に自信を持てるようになりました。授業中に自分の意見を堂々と言うことができるようになり、とても嬉しかったです。

私が発表に対して自信を持てるようになったのは、大きな成長だと思います。成長できたのは、励ましてくれた先生、支えてくれた仲間、相談に乗ってくれた兄のおかげです。感謝しています。

今、私は最上級生です。もし、発表のことで悩んでいる下級生がいたら、私も下級生を支えたいです。これからも、もっと成長していけるよう発表を続けたいです。

動物にとって幸せな世の中に

桑村小学校 6年 森 結菜さん



私は動物が大好きで、小さい時からいろいろ動物と触れ合ってきました。

以前、私の家の飼い猫が野良猫に傷つけられるということがありました。その時は腹が立ったのですが、野良猫も子どもを守るために必死だったことがあとで分かりました。野良猫も野良猫に生まれたくて生まれてきたわけではないかもしれません。また動物の殺処分など悲しいことがたくさんニュースで取り上げられています。

私は少しずつ野良猫にも優しく接するようになり、飼い猫と同じように野良猫もかわいく感じるようになってきました。それと同時に動物が不幸になるのはかわいそうだなと思いました。

そこで、私は将来動物の保護活動をしたと思うようになりました。そのために、保護活動とはどんなものかもっと調べたいです。次に動物のことをたくさん学んだり、保護動物のイベントにも参加し、保護動物とふれ合ったり、活動している人と話したりしてみたいです。

自分1人の力では小さいですが、周囲に自分の思いや動物の実態を伝えていくことで大きな力になると思います。多くの人が保護活動に協力し、動物を大切にすることで、動物にとって幸せな世の中が来ることを強く願っています。

「つながり」とは

東小学校 6年 柳田 暁さん



私は、人と人のつながりについて考えたり、自分から積極的につながりを作ろうと思ったりしたことはありませんでした。

そんな私が、つながりについて考えるようになったのは、今年2月にサッカー大会のため、茨城県から2人の子が私の家でホームステイすることになったことからでした。

初対面の2人と次第に仲良くなる中で、一歩踏み出す勇氣を持って行動することが必要であることと、共有体験を共感することが、人とのつながりを生むことを学びました。

6年生になり、前に出ることがあまり得意ではありませんでしたが、勇氣を出して計画委員に立候補し、運動会だけはこの音頭という種目の担当になりました。大変でしたが、みんなで試行錯誤しながらさまざまなことを乗り越えていきました。当日は保護者も加わり楽しそうに踊っていて、みんなが「つながっている」と感じました。計画委員のみんなともより深いつながりで結びつくことができました。

これらの経験を通して、どんな人同士でも少しの勇氣を持ち、共感しあえる瞬間があれば「つながる」ことができると感じました。「つながり」を生むのは共感。共感を大事にして、多くの「つながり」を作っていきたいです。

みんなの笑顔のために

西小学校 6年 風間 奈緒さん



困っている人のために何かできないか、そう考えるようになったのは、去年の夏に困っているお年寄りに声をかけられなかったことがきっかけでした。

そのお年寄りは、杖をつき荷物をたくさん持って歩いていました。迷っていると、近くにいた男の人が声をかけ手伝っていました。私も勇氣を持って声をかけられればと感じました。

別の日、そのお年寄りが困った顔をして信号を待っていました。声をかけて横断歩道を一緒に渡り直して親切にすることは大切だと思います。

昨年亡くなった祖母は介護施設に入っていて、母は一生懸命祖母のお世話をしていました。私は母のように直接お世話をすることはできませんでしたが、母のその姿を見て、困っている人たちの力になりたいと考えられるようになりました。

私は、将来看護師になりたいです。大人になった時にはいろいろな人の役にたてるように勉強し、努力したいです。

皆さんも身近な困っている人のことを考え、その人の気持ちになって、少しでも力になって欲しいです。初めは家族の中で声をかけあい、みんなが笑顔で過ごせるようになっていきたいと思います。

※各発表者の文章は、主張の主な内容を要約して掲載しています。